

研究分野のキーワード：感性, ものづくり, 造形表現の発達, 図画工作における教材研究

#### 研究紹介

ものをつくることは人間が生きていく上で最も基本的な行為の一つです。人類が文化・文明を創り出した背景にはものづくりの活動が必要不可欠であるといえます。このような観点から、教育の中には図画工作や美術などいろいろなものづくりのプログラムが組み込まれています。

私の専門領域では、子どもたちがものをつくる過程でどのような学びがあり、人間形成がなされていくのか、また、人間形成にはどんなものづくりが必要なのかについてさまざまな観点から研究を進めています。

例えば、A4の用紙を使って紙ヒコーキをつくったとしましょう。皆さんは、紙ヒコーキをどれくらい飛ばすことができますか？ギネス記録では最長 35 秒以上、ギネス記録ではありませんが距離では 40m 近くの記録があります。簡単なようですが、目をつぶって 35 秒飛行機が飛んでいる様子を想像するとそれが如何に長い時間かということがわかります。

これらの記録は、紙ヒコーキの伝統的な折り方(文化遺産)に学び、よく飛ぶように調整し、飛ばす(試行錯誤)といったプロセスがあって初めて実現(自己実現)されます。自分の思うようにヒコーキが大空を飛ぶのはとても気持ちのよいものです。美術教育の世界では紙ヒコーキを教材にする事によって科学や機能美など様々な学びやよりよい経験の提供を考えます。

今度は、土と水を使って泥団子を作ったとしましょう。普通にお団子を作ることはそれほど難しいことはありませんが、表面の光ったつるぴかの泥団子にするにはとても技術が必要になります。まず、固くて丸い土のお団子を作らねばなりません。出来たら、それを光らせるための方法が必要になります。それらの秘密は、土の粒子の中に含まれる粘土の成分と水がカギを握ります。粘土は土の中に含まれる最も細かい粒子で、タバコの煙ほどの小ささです。これが土の中に含まれることによって、粘りが出て形が作れるようになります。子どもたちはこれらの活動を行うことによって自然環境との関わり方を学びものづくりの魅力に出会うことができます。



このように数例を紹介しただけでもものづくりには多くの値打ちがあることがわかります。人々にとって学びや生きがいのある魅力的な活動を提供し、心身の豊かな成長を支えることが私の目指す美術教育研究の目標といえます。